

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第 126 号】2024 年 8 月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL : 03-3383-7800

7月6日（土）第22回総会を東京都生協連会館に参集し開催しました。議決については、「会場での議決」「議長委任」に加え、「書面での議決」を継続して実施しました。総会では、小野明広代表幹事から議案を提案し、挙手による議決と事前の議決権行使を合わせ全議案が承認されました。

総会終了後は、「東京都生協連から被災地の現況や生協の支援活動の報告」、要配慮者支援と自宅での備蓄をテーマに携帯トイレの凝固実験や備蓄品の調理と試食、災害備蓄機器の使用体験を行い、実践に役立つ学びとなりました。総会を終え、2024年度の活動をスタートします。

第 22 回総会 議決結果をご報告します



議決権の行使は以下の通りです。

書面議決：30名（第1号議案 賛成30名、反対0名 第2号議案賛成30名、反対0名）
全議案議長委任：96名、会場挙手：24名、無効：1名（無記入）

採決結果は以下の通りです。

第1号議案「2023年度活動報告承認の件」反対0で賛成多数
第2号議案「2024年度活動方針承認の件」反対0で賛成多数
第3号議案「2024年度幹事選出の件」6名の幹事立候補があり全員の選出を承認。

※総会運営規程第8条(議決事項の成立要件)に則り、出席者の過半数以上の議決により可決。



中村佳子幹事が議長を努めました

東京都生協連 秋山純専務あいさつ

能登半島地震から半年たち、ほとんど報道されなくなりました。私も1か月前に現地に行き、復興に向けてほとんど手がついていないことに驚き、国や県はどのように対応をしているのかと率直に感じました。



災害から命とくらしを守るために学ぶことは大切なことです。10人全部の命は守られないかもしれないが、9人、8人の命は守ることができる。暮らしは全部守られないかもしれないが、一日でも早く再建できる。そのための準備は今のうちからできると思います。東京の災害にどう備えるか…みなさんとここに集まり、話し合うことはとても大切なことです。

能登半島の支援は長期になります。同時に、これまでの震災の被災により、いまだに苦しんでいる方もいらっしゃることを忘れずに、東京都生協連は今後も息の長い支援を続けていきます。

2024年度の幹事6名が選出されました

石井 武志さん（継続 生活クラブ生協東京 職員）
小野 明広さん（継続 パルシステム東京 職員）
小野 清さん（継続 消費者住宅センター 職員）
鹿野 明美さん（継続 東都生協 組合員）
中村 佳子さん（継続 パルシステム東京 組合員）
西 裕子さん（継続 東都生協 組合員）

幹事会細則第3条に則り、総会終了後に開催した第1回幹事会で、2024年度の代表と副代表幹事を選出しました

代表幹事 小野 明広さん
副代表幹事 西 裕子さん



小野代表幹事

議決のハガキやフォーマットにコメントをいただきました。(➡は幹事会より)

- ・「CO災ボの多彩な講座への参加を楽しみにしている」「仕事や家庭の都合でなかなか参加できず残念です」 ➡これからも魅力があり役立つ講座を企画し、合わせて参加のしやすさを追求したいと思います。
- ・「豊島、北、板橋区でも防災まち歩きを検討してほしい」 ➡今年度の「東京都・板橋区合同総合防災訓練」では、板橋区の防災まち歩きを実施しますのでCO災ボ会員にご案内します。
- ・議案書はカラー印刷でなくてもよいのでは？ ➡費用が半分に抑えられ、事務作業が削減できるため、今回はカラー印刷で外注しました。今後も伝わりやすい議案書となるように検証していきます。
- ・「能登半島地震が発生。もし東京でもこのような災害が起きたらと思うと…。微力であっても無力ではありたくない」というコメントには共感で胸がいっぱいになりました。 皆さま、ありがとうございました！

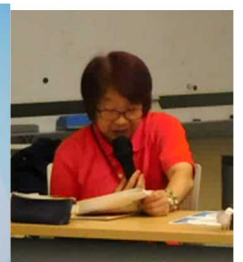
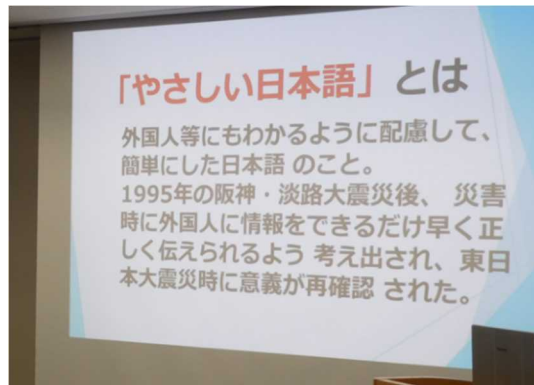
学習会①能登半島地震活動報告

能登半島地震の被害状況と現在の様子、生協がかかわる支援について情報提供しました。



学習会②災害から命とくらしを守るために

地域で考える要配慮者支援の一つとして外国人や障害のある人にも伝わりやすい「やさしい日本語」、自助の備えとして「防災備蓄品とローリングストック」を学びました。



講師は西裕子幹事

グループワーク

グループごとに、①携帯トイレの実験 ②サラダの調理を行い、湯せん調理のカレーライスを試食しながら備蓄品について情報交換しました。



「サバ缶カレーライス」の湯せん調理。湯せんができる高密度ポリエチレン製のポリ袋に「お米・水」、もう1袋に「サバ缶・玉ねぎ・カレールウ」を入れ、口を結び、20分湯せんしてできあがり。



対面で話す時のポイントを検索して視聴しましょう！
墨田区「やさしい日本語を使おう！」

①ごみの出し方編 ②防災訓練に行こう編
東京都 生活文化スポーツ局地域活動・多文化共生
「やさしい日本語(にほんご)」



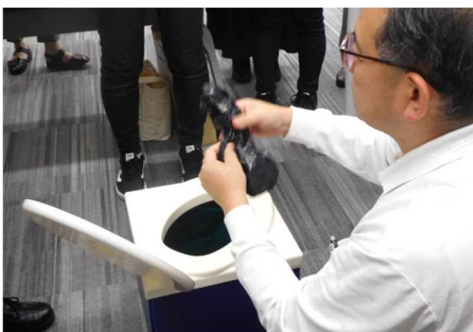
①凝固剤で水を固める実験。左側3つが粉末、右側2つがタブレット。粉末の方が早く固まりましたが、固まり具合は同じでした。



②パウチなら加熱不要、マヨネーズを混ぜてサラダに。ゴミの容量が小さい点も便利。

展示と体験

東京都生協連の備蓄品から家庭に備えると便利なものをピックアップ。展示コーナーで使ってみました。



携帯トイレの設置と処理の方法も体験。家族や職場でも一度はやってみましょう。



カセットボンベストーブ
太陽光発電機・蓄電器・
折りたたみヘルメット・
ヒートパック（調理用）
卓上ランプ・ラジオなど。
家庭の備蓄の参考になると好評でした。



ローリングストックで、ムリなく、ムダなく、備蓄しましょう

日頃から利用している食料品や日用品を多めにストック。賞味期限や使用期限が切れる前に消費し、早めに買い足し、一定量をストックします。



コラム by 鹿野明美 幹事

「天災は忘れた頃にやって来る」…しかし昨今は「天災（災害）は忘れる間もなくやって来る」

私は、生協の組合員になって、食の安全・環境・平和の大切さなど様々なことを学ぶ機会を得ることができました。そして今は、コープ災害ボランティアネットワーク（以下CO災ボ）を知り、身近に迫る災害について学ぶことができています。前記したように、生活の変化等がもたらした地球環境の大きな変遷、今それを知り学ぶことは大切なことになりました。

CO災ボでは、毎日の暮らしの中で少し見方を変えることで実践できる減災について学んだり、被災した地域や人々に寄り添う術を身につけたり、それらの知恵を何か一つでも知ってもらえるように活動を広めています。また、たくさんの組合員のみなさんや地域の方と繋がっていきたくて考えています。

第22回の総会を終え、2024年度の活動がスタートしました。今年度は、CO災ボ20期生の基礎講座を開催し、また新しい仲間を募ります。

今年度も生協の繋がりから生まれたCO災ボの活動を、一緒に進めていきましょう！

- * 「東京防災」お手元に届きましたか？折に触れ開いてください。それだけで減災活動の第一歩。
- * 「ハザードマップ」をぜひお手元に。自分の地域を知り、自分や家族を守る大切な資料です。
- * CO災ボニュースのバックナンバーには、いろいろな減災・防災のヒントが一杯です。

東京都生協連ホームページから見てください。 [「東京都生協連防災災害」](#)で検索

[防災・災害、被災地支援 | 東京都生活協同組合連合会 \(coop-toren.or.jp\)](https://coop-toren.or.jp)

令和6年能登半島地震 被害の状況と生協の支援活動について

2024年1月1日に発生した能登半島地震は発生から半年が過ぎましたが、避難生活を続けられている方や日常と大きくかけ離れた生活をされている方など、被災された多くの人にとり元の生活に戻る兆しが見えない状況が続いています。東京の生協や東京都生協連は、発災直後から東京でできる支援や現地での支援を行ってきました。これからも息の長い支援活動に連携して取り組んでいきます。

【被害状況】

過去にも大きな地震に見舞われている能登半島。建物の倒壊、土砂災害、延焼火災、津波や地盤隆起など様々な被害が発生しました。



4月には桜が満開に。列車の運行再開、水道管や仮設住宅の建設などが少しずつ進んでいました。



【東京都・被災者支援プログラムに参加】

東京都・東京ボランティア市民活動センターが主催し、災害協働サポート東京が協力して三者連携で実施している、サロン活動の運営に参加しています。

輪島市・穴水町を中心に8か所で地域での交流・支えあいの場づくり、被災者がほんの少しホッとできる場づくりに取り組んでいます。

4月末～9月末まで、毎週20人前後のボランティアが現地で活動します。

※被災者の写真はボカシを入れています。



【街頭募金活動の実施】

発災直後は現地での支援受け入れが進みませんでした。その中で「東京で何ができるか」を考えて東京の生協が連携して街頭募金活動を行いました。東京都生協連もJR中野駅前などで1月2週から4週にかけ計5回実施し、募金の半分を被災者への義援金、半分を支援活動団体への支援金として寄付しました。



【コープ被災地支援センターの支援活動に参加】

石川県生協連は日本生協連の全面的な協力のもと、「コープ被災地支援センター」を1月22日に設置し、さまざまな運営支援を行いました。

- ・現地で活動する支援団体と連携して物資を提供。
- ・能登町災害ボランティアセンターの活動支援。
- ・災害ボランティア活動と災害ボランティアセンターの運営支援。
- ・穴水町災害ボランティアセンターの運営支援。



【炊き出し支援活動に参加】

大阪府生協連とNPO法人リエラが輪島市町野町で連携して取り組む炊き出し活動に、関西・北陸を中心とした生協とともに参加。東京都生協連は2回、延べ5名が参加しました。



東京での大災害に備えて

首都直下地震や東京での大災害に各地での経験をどのように活かすか

- ・生協や行政、企業の対応を検証して組織の災害対策に活かすことが必要です。
- ・生協として災害支援を専門とする団体を支えます。集まった募金を支援団体にも寄付する意味はここにあります。
- ・平時から様々な団体や人とつながり、顔の見える関係をつくりましょう。
- ・平時から自助の備えと地域の活動に目を向け、支援される人ではなく支援する人にもなりましょう。